

〒143-0023 東京都大田区山王4-21-5
山王ハイツ101
Tel. NTT 03-5743-2562 FAX 2570
J R 058-4502 (FAX兼)
Eメール jrroukairou@yahoo.co.jp

J R 東海労働組合
発行人 鈴木富雄
編集人 加藤光典

2009年
6月15日
第281号



JR東海労

http://www.geocities.jp/jrtoukairou/

デッチ上げ・蒲郡駅事件不当判決糾弾！ 控訴審勝利に向け闘おう！



全地本、 控訴審勝利決起集会を開催！

デッチ上げ・蒲郡駅事件で、4月19日の刑事裁判、5月21日の民事裁判において、何らの証拠もないのに、全てが「推認」に基づいての不当判決が出されました。

私たちは、まさに司法の暴走・犯罪ともいえる不当判決を断じて許さず、全地本において控訴審勝利決起集会を開催しました。集会にはのべ250名の仲間が結集し、加藤誠二さんの完全無罪・早期職場復帰に向けて、全力で闘うことを意思統一しました。

名古屋地本

6月1日、名古屋市鶴舞労働会館において「加藤誠二君と共に闘う名古屋の会」との共催で、「不当判決を許さず、控訴審勝利6・1決起集会」を開催しました。集会には加藤誠二さんと奥様、名古屋地本組合員はもとより家族、OB、JR貨物労組の仲間も結集し、全体で60名の参加で圧倒的成功を勝ち取りました。丹羽委員長から「今日は、99年前の1910年、日本に社会主義運動を切り開いてきた幸徳秋水が、時の政府によって大逆罪をでっち上げられ逮捕された日である。そし



て今、我が仲間の加藤誠二さんは、窃盗罪というデッチ上げにより、刑事裁判では不当にも有罪判決を言い渡され、民事訴訟は棄却をされた。これらに日本における国家権力の意志を体現し貫徹しているといえる。今日の集会を名古屋地本総決起の日として確認しよう。」とあいさつされ、また、共に闘う会の西川会長からは「権力に対して激しい怒りを感じる。日本に

おける裁判所、検察のあり方と共に『週刊現代』等に見られる今日のマスコミ報道にも問題がある。9月7日から始まる控訴審勝利に向け、共に奮闘する。」とあいさつがされました。



さらに、本部鈴木委員長、JR貨物労組東海地本本田形委員長、地本OB原会長、JR総連議員団副団長楠議員からの連帯のあいさつを受け、中津川市議の原昌男さんからの力強いメッセージを紹介しました。



荻野地本書記長の基調報告の後、加藤誠二さん

に対する不当解雇通告から公判の推移までをまとめた寸劇を地本執行部、分会組合員が共同で演じ、奥様の加藤正子さんより「先日TVで、内部告発をした社員が陰湿なイジメを受け会社から放逐をされてしまうドラマを見ました。私の主人は会社から解雇されましたが、そのドラマと違い多くの皆さんの支えがあります。これからも宜しくお願いします。」と訴えられ、参加者全員は決意を新たにしました。

最後に、9月7日から始まる控訴審勝利に向け、参加者全員で団結ガンバローを行い終了しました。



新幹線地本

6月3日、目黒さつき会館において「蒲郡駅事件控訴審勝利総決起集会」を開催しました。集会には、組合員83名が結集し、「刑事裁判」「民事裁判」の不当性を明確にし、控訴審の闘いで勝利を勝ち取るための意思統一をしました。



成田委員長から「この攻撃は加藤さんだけへの攻撃ではない。JR東海労、JR総連全体1人ひとりに掛けられた攻撃だ。判決は不当であり絶対に許せない。警察・検察・裁判所はグルになって、権力を守るためのものでしかないことがはっきりした。新幹線地本では不当判決に抗議するため、品川駅・港南口と東京・鍛冶橋でビラ配布を行い市民に訴えた。私たちの闘いは、連帯の輪を広げることだ。葛西労政と闘い、組織強化を勝ちとることだ。東海の地に労働運動の灯を赤々と燃やし続けよう。闘いは困難

新幹線関西地本

だが1人ひとりの力で勝利を勝ちとろう」とあいさつがなされ、JR総連萩原副委員長、本部淵上副委員長から来賓のあいさつをいただきました。



「蒲郡駅事件」被告に仕立て上げられ、不当解雇された加藤さん本人から、これまでの闘いの報告と、控訴審勝利に向けて全国の仲間とともに断固として闘う決意が力強く訴えられました。

第二部では、加藤さんを囲んで大激励会が開催され、参加者から加藤さんと共に闘う決意が述べられました。



新幹線関西地本

6月10日、東淀川人権文化センターにおいて「蒲郡駅事件の控訴審勝利をめざす関西集会」を開催しました。

集会には、多くの仲間の組合員が結集し、名古屋地方裁判所の不当判決を許さず、加藤誠二さんの早期職場復帰を勝ちとるために組織一丸となつて全力で断固闘い抜くことを確認しました。



集会は湊書記長の司会ではじまり、主催者を代表して船出委員長が「この集会は、4地本(新幹線地本、静岡地本、名古屋地本、新幹線関西地本)が各地本ごとに集会を開催し、そして加藤誠二さんにも参加して頂き、裁判のデッチ上げ、労働組合つぶしの弾圧を跳ね返す意志一致をはかるために行われています。関西地本も、控訴審勝利に向けて決起しよう」とあいさつしました。

静岡地本

それが控訴審勝利に向かうことである」と、さらにJR総連舟山特別執行委員からは「法の精神の疑わしきは罰しないという原則が失われつつある。今回の弾圧の先には、軍事大国化を目指す動きがあることをあばきだしなから闘う」とそれぞれから連帯のあいさつを受けました。



最後に、加藤誠二さんから「弾圧から今日まで組合員のみなさんの職場からの闘い、傍聴券獲得の闘いなど、多くの仲間を支えられ闘ってこれました。これからも、みなさんの力を頂き、いい加減な判決を許さず、控訴審勝利に向け最前線で闘っていき」と、力強い決意が明らかにされました。

静岡地本

6月12日、浜松福祉交流センターにおいて、加藤誠二君を支援する浜松の会との共催で、「6・12蒲郡駅事件裁判報告決起集会」を開催しました。集会には、40名の組合員・支援する会の仲間が結集しました。集會前、浜松駅前ではビラ配布行動

展開しました。



地本山本委員長の集會開會宣言で集會を始め、司會は地本岩本副委員長が行いました。主催者を代表して、支援する会・長野会長は「支援する会は、裁判傍聴や集會、街宣行動などあらゆる闘いを展開してきた。今後もしっかりと闘っていく」「袴田事件の裁判官であった熊本氏は無罪を主張していた。袴田事件の支援者と連帯して闘う」とあいさつを行いました。



来賓として、本部鈴木委員長、「浜松・袴田巖さんを救う会」寺沢さん、袴田ひで子さん(袴田巖さんのお姉さん)が、それぞれあいさつを行いました。

した。そして、集會で集めたカンパを手渡ししました。

本部鈴木委員長は、「この集會を4地本で開催し、控訴審勝利に向けた意思統一を行う。蒲郡駅事件は、JR東海と警察権力がつくり上げた事件だ。2月に加藤さんを犯人と決めつけたならば、すぐにファイルから指紋を採取するのが当たり前だ。いかに不当判決であるか。JR浦和電車区事件同様、外部からの力を加えるという組織破壊攻撃である。袴田事件など同じえん罪被害者と連帯して闘おう」とあいさつしました。



寺沢さんは、「静岡県はえん罪のデパートと言われている。島田事件の赤堀さんとも闘ってきた。警察は、アリバイがない人や弱い立場の人を連行し、自白させ、手柄を取っている。袴田事件では、44通の自白調書を取られたが、公判では1通しか採用されなかった。袴田さんは、42年間も投獄されている。一刻も早い再審査を求めている」とあいさつしました。袴田ひでさんは「事件当時外にも出られなかった。支援者の力がありがたい。加藤さんにも支

援をお願いしたい」とあいさつしました。



続いて、加藤誠二さんと共に闘う名古屋の会より戸田さんの連帯あいさつ、斎藤晴明浜松市議のメッセージを披露し、本部高山法対部長の裁判報告、加藤誠二さんの決意表明を行いました。加藤さんは「古田ファイル、文書が1枚1枚黒くなっていた部分があつたので、指紋の鑑定はやられていた。不当な判決だ。9月7日第1回控訴審が開廷される。世の中を変えるという大きな目標を持って闘う」と決意を述べました。地本渡辺書記長の集會アピール、支援する会・小林さんの団結ガンバロで集會は成功裡に終了しました。

